

工事計画予定



ご支援のお願い

本年から始まる児童寮等建て替え計画を進めるにあたり、自己資金が不足しております。
改築に際しては国・東京都の補助金交付を受けますが、4分の1の額を自己資金としてまかなう必要があります。
その財源確保のために皆様のご厚意を賜りたく、ご支援のお願いをいたします。
ご支援を頂けます際は、下記までお問い合わせ下さい。ご支援方法等の詳細を説明申し上げます。

社会福祉法人福田会 03-3400-4009 担当：高橋、坂路

ご支援方法

- ①ご支援頂ける皆様へ、福田会よりご支援方法等の詳細用紙をお送り致します。
- ②ご支援方法に従い、ご支援金をご入金下さい。当方で入金確認後、寄付金控除用領収書を発行致します。
- ③ご支援くださった皆様へ福田会主催のイベントのご案内・広報誌の送付をさせていただきます。

..... 子ども達の幸せを支える貴重なご支援に心から感謝申し上げます。

- 名 称 社会福祉法人福田会 理事長 太田孝昭
- 所 在 地 〒150-0012 東京都渋谷区広尾4丁目2番地12号 TEL：03-3400-4009 FAX：03-3407-0478
http://www.fukudenkai.or.jp
- 施 設 福田会東京本院（児童福祉法による児童養護施設）
宮代学園（児童福祉法による知的障害児施設）

伝統を現代に、そして未来へ

福田会の 100周年

社会福祉法人
福田会

ご挨拶

福田会は、本年より全面改築計画に入りました。

1876（明治9）年に児童養護を目的として福田会が創立されてから本年で135年、現在の広尾の地に移って100年が経過いたしました。様々な困難がありましたが、それを乗り越え今日を迎えることができましたのも多くの方たちの暖かいご支援があったからこそと感謝の念に堪えません。

この記念すべき年に当法人の改築計画がスタートしたことは何より嬉しい限りであり、本年から本格稼働の年になります。私も含め職員一同はりきっており、必ずや成果は上がるものと確信しております。

福田会で暮らす子ども達、保護者の皆様、福田会関係者にとりまして最大の関心事とありました老朽化した施設の建て替え及び新規計画の老人施設建設については、昨年来、国や東京都、渋谷区などと交渉を開始しておりまして、着実に実行して参ります。つきましては、具体的な建替え計画が着手できるようになりましたら、皆様方にご報告申し上げます、またご支援のお願いなどをさせていただきますので何卒よろしくお願い申し上げます。



社会福祉法人福田会
理事長
太田孝昭

福田会とは…

福田会は、明治9年3月臨済宗の高僧が中心となり仏教精神に基づく育児院創設を計画し、渋沢栄一氏ら各界有志の支援により事業を開始しました。

福田会の命名の由来は、田園を耕し種をまけばまくほど、秋になると収穫が多く得られるように、人間社会においても善いことを多くすれば自然と多くの幸福が得られるという仏教の説教に基づいています。

実践として、孤児・貧困者等に物心豊かに恵みを与え救済することで、自分自身にも自然に幸せが訪れるというものです。

事務所を日本橋の「智泉院」に設置し、その後本郷の「麒麟院」を経て、明治25年12月麻布の「長谷寺」に移転しました。明治43年には現在の渋谷区広尾に移転しました。

福田会の長い歴史の間には、大正時代に国土を分割されシベリアに追放されたポーランド人の孤児・児童を、ようやく独立したポーランドからの支援要請に応じた日本政府に協力し、375人を受け入れ、子どもたちの生活の場とするなどの国際的支援をしています。

90年後の平成21年にポーランド大使が訪ねてこられ、福田会との交流が始まりました。

沿革

1876（明治9）年 各宗の高僧の発議により福田会を設立。寺院を中心に、児童養護・里親委託などを開始。

1879（明治12）年 日本橋に事務所を開設。福田会育児院とする。

1898（明治31）年 社団法人福田会を設立。

1910（明治43）年 現住所地の渋谷区広尾（旧町名・宮代町）に移転。

1921（大正10）年 財団法人福田会に組織を変更。

1948（昭和23）年 養護施設「福田会東京本院」として認可される。

1952（昭和27）年 社会福祉法人福田会に組織変更。

1959（昭和34）年 知的障害児施設「宮代学園」（女子15名）を併設。

1988（昭和63）年 宮代学園が定員を30名に（男女）に増員。

1996（平成8）年 福田会東京本院の分園型グループホーム（定員6名）を渋谷区恵比寿に開設する。

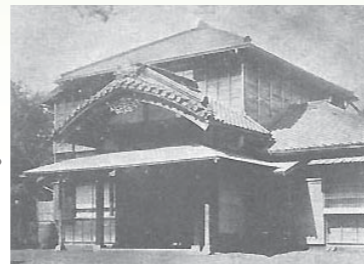
2003（平成15）年 宮代学園が認可を得て児童短期入所の事業を開始する。

2009（平成21）年 福田会東京本院の分園型グループホーム（定員6名）を渋谷区東に開設する。

2010（平成22）年 福田会東京本院の分園型グループホーム（定員6名）を渋谷区広尾に開設する。



現在地移転前の福田会表門（明治25年頃）



現在地移転前の福田会玄関（明治25年頃）

当時のようす（明治中期）



遊戯



掃除



造花および編物



食堂

福田会は100周年

昨年は麻布の「長谷寺」から渋谷区広尾の現在の地に移ってちょうど100年、また今年には福田会が設立して135年の節目を迎えます。節目を迎えるにあたり、創設時の児童福祉の精神に加えて、地域社会の意向・要望に応えるべく「開かれた福祉施設」として社会的使命を果たすため、今後の新展開が必要であると考えております。

現在、計画が進んでおります児童寮等施設の建て替えと同時に、地域と時代の要請に応える高齢者施設の整備を行います。

また施設整備とあわせて次のように事業展開を進めます。

事業展開の考え方

- *幼児から高齢者まで、障害があってもなくてもお互いに支え合います
- *渋谷区や地元の意向を踏まえ、地域貢献を進めます
- *福田会の福祉の伝統を地の利を生かして総合的福祉を展開します
- *施設開放の空間を多様に演出して、従来の福祉の閉鎖的イメージを払拭します

児童寮等施設の建て替え

(1) 児童養護施設40名定員

既存の施設は昭和40～50年代の建物であり、著しい老朽化のため建て替えが必要です。児童の生活環境を、よりきめ細かい養育が可能なユニット単位にし、またグループホーム化を進めます。また、専門機能強化型施設としての体制を整備します。

(2) 障害児施設

① 知的障害児施設30名定員

現在、男女各15名の独立した建物ですが、男女間でニーズに相違があり、柔軟な対応が求められています。建て替えにあたっては児童のニーズに対応できるように構造的な配慮します。

② 短期入所事業2名定員

現状の2名定員ではニーズに応じきれない状況にあり、定員増を考えています。

(3) 高齢者施設（新規）

① 軽費老人ホーム（大都市・小規模タイプ）20名定員

平成22年度から国において、都市部における低所得で要介護・要見守りの必要な高齢者向けの軽費老人ホームが認められたところです。近年大都市におけるこのニーズへの対応が喫緊の課題となっており、且つこの対応が福田会の理念に合致しているため、新たに高齢者福祉事業に取り組むこととし、地域との結びつきを重視した運営を行います。

② 認知症グループホーム18名定員

地域のニーズの高いグループホームであり、軽費老人ホームとの合築整備をして要望に応えます。

高齢者施設を設置することで、児童養護施設や知的障害児施設の児童と高齢者との交流を図るとともに、利用者は園内の活動や作業等がかかわりを持つなどお互いに支え合うことができます。

(4) 地域交流センターの運営

施設機能の一部として交流スペースを設け、地域貢献を目的として以下の用途で地域の方たちに開放します。

- ① 地域住民・福祉関係者に会議等の場を提供する。
- ② 災害時の避難場所として地域住民・通勤難民・病弱者への対応を行う。
- ③ ボランティア・実習生・介護体験学生等の研修の場とする。

